

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

心を神に、 主に心を献げます

～上にあるものを求めなさい～

あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。(コロサイ書3:1)

5月を迎えました。新緑と「五月晴れ」という言葉が示すように、明るい光に溢れた青空が美しい季節です。

この5月に迎える教会暦の大きな祝日に昇天日があります。御復活から40日にわたって弟子たちに現れた主イエス・キリストはこの日、弟子たちの前で天に昇って行かれたのでした。その様子が使徒言行録1:9に記されています。

「イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。」

いつまでも天を見上げて立っている弟子たちの様子にはイエスと共に天に昇りたいという思い、イエスとの別離への不安、寂しさが滲み出ているようです。

しかし続く節に「すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。『ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。』」とあります。

その御使いの言葉に促されて、弟子たちは我に返ったかのようにエルサレムに戻り、祈りつつ聖霊を待ったのでした。

(使徒言行録1:9-11より)

上にあるものを求めなさい

冒頭の聖句に「キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。」とあります。

聖餐式の感謝聖別の祈りの最初に「心を神に。主に心を献げます。」という交唱があります。この「心を神に」という言葉は「スルスム・コルダ(心を高くの意)」というラテン語から来ており、英国では「Lift up your heart(あなたの心をあげなさい)」と訳されています。そこには「地上という下の方の物事に目を奪われていないで、天に目を注ぎ、上に向かって心を上げなさい」という響きがあります。

しかしそれは決して現実逃避として天を仰ぎ続けることではありません。心の内に天を望みつつ、同時にこの世の現実を確かに生きていくことが求められているのです。

人間である私たちはこの地上を離れることはできません。私たちは地に足をつけて生きることが求められているのです。しかしその上で、天に昇り、神の右に座しておられる主イエス・キリストを仰ぎ続けることが大切なのです。そしてそれが「上にあるものを求める」ことであり、また「心をあげる」ということなのです。

主が来られる時を待ちながら

天を見つめていた弟子たちは御使いに促され、イエスの「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい(使徒言行録1:4)」というみ言葉に従って聖霊を待ち、やがて福音宣教者としての使命を担っていったのでした。

今、私たちもまた、天に昇られた主イエス・キリストを仰ぎ見つつ、再び主が来られる時を待ち望みながら、この世にあってそれぞれに主から与えられている道を歩んで参りたいと思います。